五輪塔（航海記念塔）

この五輪塔は、鎌倉時代（1185～1333 年）に建てられた 5 段の石塔です。高さ 6 メートル、最下段の横幅は 2.4 メートルで、このような塔の中では日本最大級の大きさです。この塔は国指定重要文化財となっています。

五輪塔とは仏塔の一種であり、平安時代（794～1185 年）中期に日本で導入されました。それらはほとんどの場合、石造りであり、形は宇宙を構成すると信じられている 5 つの要素を象徴しています。下から上に、各段は地、水、火、風、そして天空（または空）を表します。このような塔の中でより小さいサイズのものは、墓標や記念塔となっているものが多く、仏教寺院や墓地でよく見られます。

ほとんどの五輪塔とは異なり、この五輪塔は刻銘がないため、制作の目的は不明です。最も知られている言い伝えによると、1175 年頃、ある商人が中国から帰国する途中、海上で激しい嵐に巻き込まれました。命の危険を感じた彼は、八幡神に身を守ってもらえるよう祈り、奇跡的に岸までたどり着くことができました。彼は祈りに応えてくれた神様に感謝して、この石塔を建立しました。この話にもとづき、この塔は時々、航海記念塔とも呼ばれます。